

よか ネット YOKANET

NO. 22 1996. 7

(株)九州地域計画研究所

もくじ

NETWORK

NIRA 助成研究報告②「高齢者はなぜふるさとを離れたのか」 元気な高齢者が高齢者を支える町	2
「高齢時代の住まい方について」 ー伊藤明子建設省課長補佐の講演ー	5
まちを元気にするミュージカル ～ふるさときゃらばん福岡公演	6
博多のまちが元気になる キャナルシティ博多のオープンと川端商店街	8
地域データ散歩② 若者地域定着の様子ー太宰府市、大牟田市	10
地域計画のための一知半解事典③ 将来の年齢人口構成からみた住宅需要仮説	12

見・聞・食

減価型まちづくりと増価型まちづくり	13
ー新横浜ラーメン博物館で考えたことー 道業を成せんがために、まさにこの食をくうべし	15
黒木町霊厳寺の精進料理	

近 況

有智山荘で味わうドブロック、燻製、特産品	16
ー第4回よかネット・パーティー報告ー	
近 況	18



●福岡の人の流れが変わるか 「キャナルシティ博多」がオープン

左上 那珂川からみたキャナルシティ博多
左下 息を吹き返しつつある川端商店街
右上 キャナルシティ内部の流れるような曲線と運河
(本文8頁参照)

NIRA助成研究報告②「高齢者はなぜふるさとを離れたのか」

元気な高齢者が高齢者を支える町

— 山口県東和町 —

東和町は今や高齢化率が日本一（46.3%：平成8年1月現在）であるということでは有名な町になっている。

前回のよかネットで報告した「高齢者はなぜふるさとを離れたのか」の調査のときに、どのような風景の町なのかを是非確かめたいと思っていた。町の方には失礼な話であるが、私は高齢者が人口の概ね半分以上を占める地域であるということから、さぞやうら寂しい雰囲気のところではないかと勝手に想像していた。

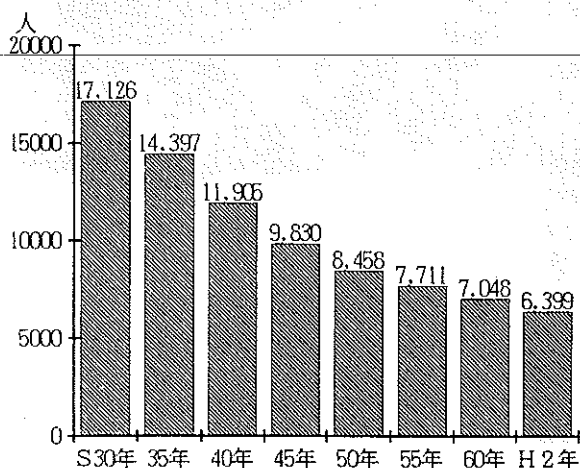
桜が散りはじめた4月の半ば頃、新幹線で新岩国駅へ行き、さらに駅前のレンタカーを借りて一路東和町へ向かった。東和町がある屋代島（周防大島）に入った途端に、瀬戸内海の風光明媚な風景と明るい日差しを肌を感じるにつけ、私の先入観は一掃された。

●過疎化に伴う人口減少と高齢化

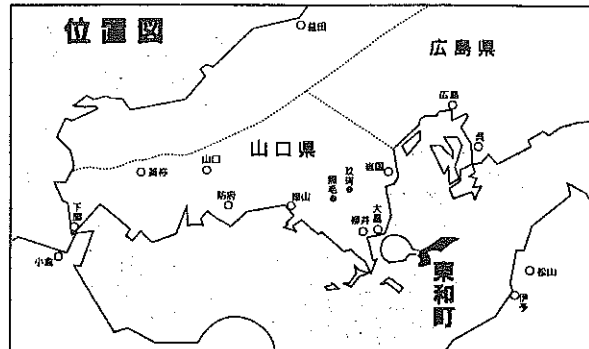
本町の位置する屋代島は広島県の方に近く、山口県の東南にあり、その規模は約129k㎡と瀬戸内海の第3番目に大きな島である。本町は、ちょうど金魚の形をした島のしっぽのところに位置する。町の東側には昭和18年に謎の爆沈をした戦艦「陸奥」の寄港地があったところとしても有名である。

本町の人口推移をみると、明治16年当時には実に2万2千人の人が密度高く居住していた地域であったが、

東和町の人口推移



東和町の位置



働き口を求めて古くからハワイなどへの移住や都会への流出に伴い昭和15年には1万5千人まで減少している。戦後は、引き上げ者などによって一時期は2万人台に回復していたものの、昭和40年以降の高度成長に伴う都市への人口流出と本町の主産業であった柑橘類の販売価格の低迷によって人口は激減し、平成2年では6,399人と昭和30年当時の3分の1になっている。

このような著しい人口減少の中で、高齢者は比較的に残ってきたことが高齢化日本一につながっているのである。

●何故高齢者が多く残っているのか

高齢単身者の全国比率が1.3%、山口県が2.2%であるのに対して東和町は12.3%と圧倒的に高い。また、高齢者夫婦世帯人員の比率にしても全国平均が2.9%であるのに対して17.7%と高い。とにかくも65歳以上の高齢者のうち実に7割強の人が単身と夫婦なのである。また、町内22地区のうち実に高齢化率80%台が1地区、70%台が2地区、50%～70%未満が6地区と合計9地区が地区人口の半数以上を高齢者が占めているところである。

このように高齢者の単身や夫婦の方が多く町に残っている理由を知りたくて福祉担当の課長さんに質問すると「私にもよくわからないのですよ。逆に教えてもらいたいものです。」という答えが返ってきた。

しかし、いろいろ雑談しているうちに、なんとなくその理由らしきもののヒントを聞かせていただいた。

私が想像するには、次の4つ程の要因が重なりあって、高齢者が一人になっても地域に定住できる環境ができたのではないかと思う。

- ①昼夜の温度差が少なく、平均気温16度という温暖な気候を有していること。これは冬場でも家の中に閉じこもりがちな北国の人たちと比べて外に出る機会が多く、健康的である。
- ②生きる糧としての畑仕事や魚釣りをしていること。高齢者の方は夕方になると、自分の夕飯のおかずを求めて自分の食べる分だけの釣りにでかけるとのこと。
- ③漁村集落で軒が連なっていることから、昔から相互扶助の精神が生き続けていること。
- ④明治期にハワイなどへの移住をした人も多く、昔から自立精神が旺盛な土地柄であったこと。等

余談だが、この町の高齢者は病院での待ち時間があまりに長いと「帰って畑仕事が残っているから、早く診察して欲しい。」という苦情が多く聞かれるという話を伺った。これなどもまさに病院通いが時間つぶしとなっている高齢者などに比べると、東和町の高齢者の精神風土をよく表している逸話であるといえよう。

ちなみに平成5年度実績の東和町の年間の一人当たりの医療費は約57万1千円で県下56市町村のうち51番目と低く、県平均（約76万円）の4分の3の費用となっている。

●元気な高齢者が高齢者の弁当を毎日作っている

今回の視察の折りに、役場の方に宿泊先を問い合わせたところ、「折角ですから給食サービスをしている民宿がいいでしょう。」ということで前もって予約しておいた。ところがこの民宿が町の中心地から山を越えた南側の「佐連」という集落にあったこと、夜も更けて東和町の人口構造（平成7年8月末）

東和町の高齢者の世帯人員別居住人員

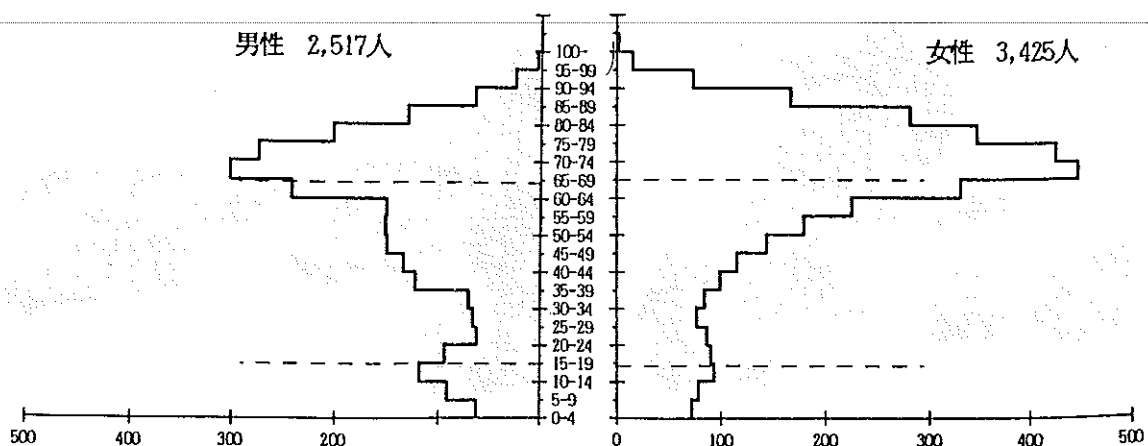
	単位：人、%		
	全国	山口県	東和町
a) 総人口	123,611,167 (100.0)	1,572,616 (100.0)	6,399 (100.0)
b) 65歳以上人口	14,894,595 (12.0)	249,488 (15.9)	2,657 (41.5)
c) 65歳以上一般世帯人員	14,233,415 (11.5)	232,924 (14.8)	2,557 (40.0)
d) 高齢者夫婦世帯65歳以上人員	3,580,814 (2.9)	73,124 (4.6)	1,135 (17.7)
e) 高齢単身者	1,623,433 (1.3)	34,058 (2.2)	788 (12.3)
f) 高齢夫婦世帯65歳以上人員(c-d-e)	9,029,168 (7.3)	125,742 (8.0)	634 (9.9)
g) 75歳以上人口	5,973,485 (4.8)	103,462 (6.6)	1,269 (19.8)

資料：国勢調査 注：不詳除く

道がわかりにくかったことなどから、目当ての民宿を探すことができず、集落到着して公民館前の電話ボックスからTELをして、女将さんに迎えにきていただき、やっと一息つけることができた。

来る途中では運転しながら、もっと分かりやすい宿にしておけばよかったと思っていたのであるが、翌朝、高齢者の方が高齢者の弁当を作っている光景を目の当たりにし、また、民宿経営者で弁当サービスの責任者である山本さんの話を聞くことができて、時間をかけて来た甲斐があったと思った。

給食サービスはだいたいどの市町村でも実施しているが、週1回程度のところが多く、東和町のように365日毎日行っているところは少ない。本町では平成3年から5年間実施してきており、現在約80名のお年寄りを対象としている。これが、なんと民宿経営の実のお母さんである82歳の方、近所の76歳の女性の方、それと女将さんの3人でほとんど毎日弁当作りを行っている



る。正月には子供たちが里帰りして弁当がいらない分もあるが、逆に弁当を当てにする高齢世帯もあるとのこと。40～50人分は元旦の朝から用意することとあった。（“おせち”ではなく、正月の3ヶ日毎日暖かい弁当を作ること。）

大体朝の10時頃までに弁当を作ると社会福祉協議会の配達用の車が弁当を取りにきて、各集落のボランティア宅に届け、そのボランティアの方が各個人宅へ配達する仕組みになっている。各集落のボランティアの中には80歳なる方もおり、雨、風の日も休むことなく各個人宅へ配っているということである。

弁当の一食にかかる製造・配達のコストは950円だが、国と県の補助があり、自己負担300円となっている。

このように高齢者が高齢者を支えている東和町は将来の高齢化が著しくなる市町村でのサービスのあり方を示しているといえよう。まさに当たり前の話であるが、高齢者の比率が多くなれば（逆にみると若い人が少なくなる）、元気な高齢者が病弱な高齢者の面倒をみなくてはいけないのである。

この配食ジャーは、毎日回収するわけにはいかず、本

人の家に1個、配食ボランティアの家に1個、社会福祉協議会の配送元に1個、弁当をつくる業者のところに1個という状況で回っており、一人当たり4個程いるとのことであった。

●親孝行システムや見守りネットワーク

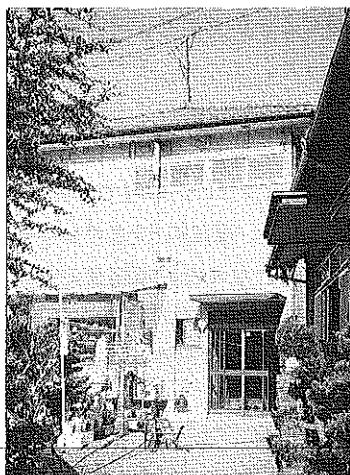
「必要は発明の母」ではないが、現在、東和町で試み始めている色々な高齢者対策は、まさに必要性から来ているものであり、高齢対策の先端産業といった感がある。この一つに「月12,000円で親孝行をしませんか。」といった呼びかけがある。これは社会福祉協議会の会長（大沼省吾氏）の発案で①毎日1食の老人給食を400円で届ける、②有料の在宅サービスを1時間500円で食事の世話、掃除、洗濯などを行う、③墓地清掃サービスを行う、といったものである。このようなことを町外にいる出身者宛に有料で年4回送っている「ふるさと通信」に掲載するとともに、会長自ら東京・近畿・広島・福岡の町人会へ出席して呼びかけている。

また、高齢単身者の日常的な安否の確認や精神的な支えを創り出していくために、小地域単位での援護体制づくりにも取り組んでいる。

●既存の資源を活かしたリゾート地を目指せないか

役場の福祉課長さんとのヒアリングの話に戻ると、「私たちが高齢になった場合、どうなるのでしょうかね。」と質問された。課長さんの年から推し量って10年～15年後の東和町の将来像を聞かれたこととなる。

町がコーホート推計法によって推計した平成12年の予測では人口5,184人、高齢化率48.3%と予測され、確実に人口減少と相まって高齢化が若干高まるといわれている。これは過去の趨勢をそのまま引き伸ばしている訳であるが、今後のまちづくりの方向によっては少しでも人口減少に歯止めをかけることもできるのではないかと思う。



給食サービスを実施している「民宿・山本」



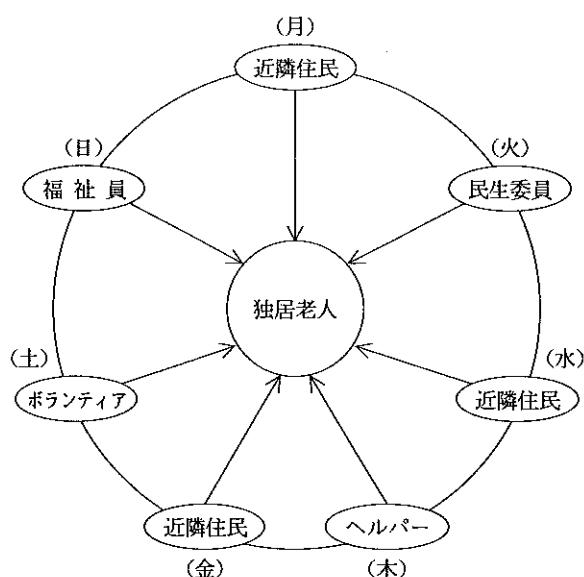
弁当づくりの風景



民宿の食堂に並べられていた配食ジャー



今日のおかずは里芋と天ぷらとサラダ



見守りネットワークのイメージ

現在、本土と島を結ぶ周防大橋が有料となっているが、近い将来無料化となることから島へのアクセスが良くなる。また、大都市に近いという立地条件、気候穏やかで畑と海に面した地形条件を活かし、旧来の都市型リゾート（デベロッパー開発型）地でなく、高齢者が居住している空き部屋、又は空き家を利用するような安価で心のふれあいのあるリゾート地づくりを目指していく方向があるのではないかと思う。

高齢者一人でも住み続けられるということは、町の大きな財産である。今後、出身者のＵターンや退職者で定住化を希望する人の安らぎの場として、地域に残っている空き家や空き地などを町が管理して一時的に賃貸化するなどの工夫ができないかと思う。

このようなリゾート地づくりが地域の馴染みの人口を増やすことによって定住化の先駆けになることにもつながると考えられる。（山田龍雄、糸乗貞喜、尾崎正利）

「高齢時代の住まい方について」

— 伊藤明子建設省課長補佐の講演から —

我が国の65歳以上の高齢者人口は、2025年には3,240万人になり、そのうち75歳以上の後期高齢者人口は1,820万人と予測されるなど、超高齢時代を迎えるにあたって、高齢者にやさしい街づくりをはじめ、国による様々な施策が展開されています。

今回、建設省住宅局市街地建築課の伊藤明子課長補佐を講師にお迎えし、国の方で進めている「高齢社会の住宅施策」をテーマに話をさせていただきましたので、その概要を報告します。

●高齢社会の住宅施策の基本的考え方

平成7年の住宅宅地審議会の答申では、「いきいきとした長寿社会を実現するための環境整備」の中で、まず第一に「50代からの住まいに焦点を当てた住宅施策の展開」として、子育ての完了する人生の転換点として50才を一つの区切りとし、これ以降の生活の充実に向けた行動を支援していくことが必要であると言われている。

第二に、「身体機能の低下等に対応可能な住宅の整備」として、要介護状態に至った場合においても、容易に介護サービスを受けられるような住宅の普及が必要であり、既に住宅金融公庫等の融資を通じた民間住宅の整備を誘導する施策を展開している。

第三に、「居住の安定と多様なニーズへの対応」において、高齢者が新たに賃貸住宅を求めても、単身女性世帯などの場合には、なかなか貸してもらえないことなどから、公共賃貸住宅の重点的な供給が必要である。また、持家居住世帯においては、資産活用をしても、所得が少ないため、ニーズにかなった住まいを容易に実現できない。そのため、シニア住宅の制度などによる新たな枠組みの展開を進めている。つまり、多様な居住ニーズに対応した選択肢を用意することが重要である。

第四に、「福祉施策との連携」では、各種サービスを高齢者が円滑に受けられるためのシステムが必要であり、シルバーハウジング・プロジェクトなどにより、福祉行政によるデイサービスセンターの機能とライフサポートアドバイザーなどによる住宅行政によるサービス機能の一層の連携が必要である。



高齢者の住宅施策について説明する伊藤明子さん

第五に、「利便性の確保・向上」では、高齢者が都心に戻るとい現象は、日常生活を支える各種民間サービスを楽しむのは利便性の高い都心部であることを示している。したがって、子育てが完了した50代以降、夫婦だけの小規模世帯向けの住宅を中心市街地に近い地域で供給することが必要であり、特定優良賃貸住宅制度などの活用を積極的に進めていって欲しい。

六番目の「少子化への対応」では、今の少子化傾向に歯止めをかけることが、長寿社会への対応として求められており、子育て環境の整備により、住生活の質の向上を目指す必要がある。

最後に「長寿社会に対応した宅地開発の推進」では、外部空間、公共施設などのバリアフリー化、福祉施設の立地促進など等を推進していく必要があり、「人にやさしいまちづくり事業」や「すべての人にやさしいまちづくりを目指して計画」などの各種施策を今後も推進していく。

●公営住宅法の改正

これまでの公営住宅階層33%を一種、二種の撤廃により、25%階層へ引き下げたことにより、特定優良賃貸住宅の活用が期待されるが、高齢者世帯等については、50才以上の高齢者世帯に広げ、収入分位も地方の裁量で40%まで設定できるようにした。また、家賃についても、世帯収入と住宅の便益に対応した応能家賃制度を取り入れ、住宅のストック活用を進めていく。

●複合型サービス施設の展開

中堅所得階層の高齢者向け住宅として期待されている「シニア住宅」は、特別養護老人ホームやケアハウスなどの他の福祉施設との合築も可能であり、最近ほ

おもしろい複合型施設の事例も出てきている。

●今後の展開

最後に今後の展開として、住宅そのものを目的とした時代から住宅を手段とし、地域づくりへ貢献していく必要があること、また、近年は住宅困窮ではなく、地域のサービスを含めた居住生活困窮という視点が必要であること、さらに住宅の機能そのものが変化しており、親族世帯の同居だけでなく、気の合う仲間との同居など多様な居住形態への対応も必要であること、そして、今後、住宅を所有するという視点から利用するという視点への転換が必要であり、世帯形態、収入に応じた住み替えが可能となる住宅ストックとして、民間住宅を活用していくことが必要である。

(文責 山辺 真一)

まちを元気にするミュージカル

～ふるさときゃらばん福岡公演

●役場の人と農家の人は笑うところが違う

所内の会議でミュージカルの誘いを受ける、というのは珍しいことであった。小さい頃にはよく演劇は見に行っただが、あの独特のわざとらしさに何となく違和感を持っていた。ただ、今回はまちおこしを題材にしているようなので、勉強にはなるかな、という程度の関心はあった。

その後でまわってきた新聞記事のコピーを読んでいると、手作りの雰囲気と迫力のようなものを感じた。題材がまちおこしというだけでなく、実際に全国の小さな町村を飛び回って公演しているらしい。記事の中の、役場の人と農家の人は笑うところが違う、という話に興味を引かれ、その劇団「ふるさときゃらばん」のミュージカル「パパは家族の用心棒」(まちおこしをイメージさせないタイトルがいい)を観に行くことにした。

●農業の喜び、田舎の幸せをうたう

大まかなストーリーはかいつまむとこんなものだ。

- ・ある小さなまちで特産品マーケット事業が失敗する。
- ・何でも屋をやっていた店がシルバーリフォームで成功する。
- ・何でも屋の娘婿は、農業は毎日感動があるからとま

ちの生活を捨て、山に帰っていく。

- ・山で一人暮らしをする女性外人教師が、田舎暮らしはゴージャスだ、と喜ぶ。
- ・漁師が山に木を植えて来て、森と海のつながりを説く。
- ・何でも屋の父親はPTAの会長だが、息子は不良。しかし父親が息子達と一緒に遊ぶうちに分かり合えるようになる。
- ・世界の食糧危機を憂慮したおじいさんが、農産品を独自のネットワークで供給し、その人達だけでも食べていけるようにしようと提唱する。

全体的には農村賛歌といった感じだが、その中でも教育問題や高齢化問題が取り上げられていて、盛りだくさんの内容だった。中身が濃いせいか、演劇などがありがちなわざとらしさをあまり感じなかった。それと、生のバンド演奏も結構効いていた。

登場人物も、いろんな年代の様々な立場の人が出てきて（その分ややこしいが）、多くの観客は役の誰かに自分をだぶらせることができる。

身近な題材でスッと入れるシチュエーションと話のリアルさ、そして強いメッセージがこのミュージカルの魅力だろう。

ただ、今回は田舎ではなく、福岡市内での公演なのが残念だった。小さな町村での公演なら、もっと違う客席の反応がみられたのではないかなと思う。

●公演先がどんなまちか、まず調査する

後日地域ゼミで、ふるさときゃらばんプロデューサーの花岡氏に話をしていただいた。地方の違いによる面白い話なども聞くことができたので、その概要を紹介したい。

- ・ミュージカル専門の劇団は、日本では劇団四季とふるさときゃらばん（以下ふるきゃら）だけ。オリジナルとなるとふるきゃらしかない。



「パパは家族の用心棒」案内チラシ

- ・1回の公演で1000人くらい集めないと採算合わない。しかし小さな町村でも毎回そのくらいは集めている。
- ・今まで全国の自治体の3分の1くらいはまわった。
- ・公演先が決まったら、人の力関係などまちのいろんなものがわかるまで調査する。
- ・スターのいない劇団で客を集めるには、面白いものを作るしかない。そのためにマーケティング調査をする。1本のミュージカルのために、サラリーマン8000人を取材した。
- ・当日の客層を把握し、それにあったテンポで上演する。
- ・みんなの中にある輝く一瞬が人を感動させる。それを取材で探し、舞台で表現する。

「パパは家族の用心棒」福岡での公演日程

ふるきゃらは、これまで738自治体、1951ステージ、観客動員173万人の実績がある（1995年12月末日現在）

新作カントリーミュージカル「パパは家族の用心棒」

3/2(土) 大木町 (福岡)	18(月) 柳川市 (〃)	5(金) 宗像市 (福岡)
3(日) 広川町 (〃)	19(火) 〃 (〃)	6(土) 豊前市 (〃)
6(水) 大川市 (〃)	22(金) 大牟田市 (〃)	9(火) 前原市 (〃)
7(木) 久山町 (〃)	23(土) 城島町 (〃)	10(水) 古賀町 (〃)
9(土) 星野村 (〃)	24(日) 遠賀町 (〃)	12(金) 八女市 (〃)
10(日) 黒木町 (〃)	25(月) 夜須町 (〃)	13(土) 杷木町 (〃)
11(月) 筑紫野市 (〃)	28(木) 長崎市 (長崎)	16(火) 久留米市 (〃)
14(木) 浮羽町 (〃)	30(土) 小値賀町 (〃)	17(水) 福岡市 (〃)
15(金) 上陽町 (〃)	4/3(水) 粕屋町 (福岡)	18(木) 〃 (〃)
17(日) 筑後市 (〃)	4(木) 那珂川町 (〃)	19(金) 〃 (〃)

- ・普通のことをテーマにすることで、今まで観に来なかったサラリーマンなどが来るようになった。
 - ・チケット代（3300円）は、サラリーマンが居酒屋で一晩に飲む程度の料金ということで設定してる。
 - ・舞台とは別に、全国棚田サミットを行った。一劇団ではあるが、人に喜んでもらうためには何でもする。
 - ・都会の人は面白くなくても最後まで観てる。田舎の人は面白くないとすぐ帰る。興味がわくかどうかは、その人のことを代弁してるかどうか。
 - ・喧嘩の場面では、東北の人はしらけるが、九州の人は喜ぶ。
 - ・筑豊地域は地元に実行委員会ができず、公演しにくい。大分は行政主導すぎて難しい。京都の宇治などは、人間にとって矛盾がないからか、活動しにくい。ふるきやは、ミュージカルという一種のイベントをやることでまちを刺激し、作品で人を刺激している。
- アンコール公演「裸になったサラリーマン」（これはバブル崩壊後のサラリーマンの話）も観に行くことができた。ふるきやは、その時代の生きた社会問題を題材にしているため、作品の賞味期限はそう長くはない。観るなら今だ、呼ぶなら今だ。

（伊藤 聡）

博多のまちが元気になる

キャナルシティ博多のオープンと川端商店街

●キャナルシティと周辺

4月20日に、カネボウの工場用地跡の再開発としてキャナルシティがスタートした。天神と博多駅の間という立地条件を危惧する見方もあったが、客足は順調以上である。このキャナルシティ及び周辺の状況報告をする。

キャナルシティは結構面白い街である。周囲を一周すると約1kmということで、かなり広いにもかかわらず、えらく高密度に建物がつまっている。しかし、内部は曲線が多いので窮屈な感じはしないが、自分がどこに居るのかわからなくなるときがある。

周辺にはすでに新しい店ができかかっているし、中洲最南端のピンクゾーンでは、夜になってもキャナルシティへの行き帰りの人通りが絶えず、従業員がいや



視察らしい背広を着たサラリーマンも多い

がっているという話もあった。ピンクゾーンなどは、一般客がゾロゾロ切れ間なく通るのも困るようだ。

●博多・天神の動きはどうか

長期低落傾向を示していた川端商店街が息を吹き返しつつある。川端商店街は、もともと博多駅につらなり、櫛田神社の門前市の役割をもった福岡一の商店街であったが、昭和38年に博多駅が東へ700m離れた現在地へ引っ越して以来、ずっと人通りが減少の一途をたどっていた。週日の昼間の商店街は、端から端まで見通せるくらいであった。今では週日の11時頃でさえ、かなりの人通りがある。一部の店では「キャナルシティ協賛」みたいな看板をたてて売出を行っている店もある。様変わりの感じである。

今まで、博多から天神の方へ「西へ西へ」と動いていた「にぎわい」が、博多（東）へ回帰しはじめたのかもしれない。考えてみれば、「街としての面白み」は太閤町割り以来の町人の街である博多部の方に多く、次の時代の人々の好みに合っているとみられる。

“ブランド”商品（モノもサービスも）というものは、自分自身の価値観はともかく、他人の多数が高い価値を認めていて、自己の好みをあまり気にしないときには、気楽で安心できる。プライベートブランドという言葉があるが、これもプライベートだということより、多数が支持するという側の秤にかかったものである。

それが天神と博多にどう関係があるのかということだが、天神がブランド指向の街で、売っているモノも店も全国的に有名なものを指向しているように見えることをここ何年か感じつけてきた。したがって小さな路地で意外な址を見つけたり、面白いたべもの屋や店を見つけることが少ないように思った。

今後、人々が中央指向、画一指向をやめて個々のち



上 キャナルシティ協賛の看板をたてて売出を行う店も
(川端商店街)

下 工事たけなわの下川端再開発事業

がいの面白さを目指すようになれば、天神のブランド指向がジャマになって、博多の路地が生きてくるだろう。

●勢いづく博多部、下川端再開発事業

川端商店街のキャナルシティの対極の拠点となる下川端再開発の工事がたけなわを迎えている。

この事業の主役は第3セクター(株)都市未来ふくおかである。第3セクターといっても、市の出資は5%にも満たない。普通の都市ならこの程度だと「市が一応つきあった」ということぐらいにしかならないが、ここでは極めて大きな役割を果たしている。それは保留床処分に対する寄与であり、市が美術館、公共駐車場、劇場の取得をし、さらには直接ではないが、第3セクターの都市未来ふくおかが大株主となって、キーテナントの仮称川端百貨店を市が支える形になっている。このあたりのことは他都市の人になかなか説明しにくいのだが。

(糸乗 貞喜)

最近の福岡の再開発事業等

	地区面積	敷地面積	建物延床	事業費	主な用途
住吉一丁目地区 (キャナルシティ)	42.9ha	34,500㎡	234,460㎡	755億円	総合物販(ダイー)約30,000㎡、専門店(ダイーグループ等)約24,000㎡、ホテル(ハイアット)約41,000㎡、ビジネスホテル(リソソ)約12,000㎡、オフィス約30,000㎡、文化(シネ・劇場)約14,000㎡、駐13,000台
下川端地区	2.8	15,900	153,800	1,070	百貨店約39,000㎡、ホテル約35,000㎡、美術館約9,000㎡、業務約9,000㎡、店舗・住宅約3,500㎡、駐約800台(付置義務400、公共400)
下川端東地区	0.8	5,900	44,200	417	劇場約16,000㎡(1500席)、業務約12,000㎡、商業約2,000㎡、駐約160台
小 計	3.6	21,800	198,000	1,487	
天神地区	1.2	6,800	69,500	490	百貨店(博多大丸)他、駐300台

(備考) この他に三越が西鉄連立立体事業関連の再開発地区計画で工事中。岩田屋も総合設計によって新館を建設中である。

※) 九州地域計画研究所作成

福岡に続々とオープンする大型商業施設

	開 業	売上面積 (㎡)		新・増設後の初年度 年商見込み(億円)
		新・増設分	既存店との合計	
キャナルシティ博多	96年4月20日	35,770	—	240
岩田屋Zサイト	96年9月22日	34,055	約66,600	1,100
博多大丸東館	97年3月2日	約18,800	約41,000	約 700
福岡三越	97年秋	38,000	—	410
仮称川端百貨店	99年2月外*	30,000	—	360

※) 日経流通新聞 96.4.30

地域データ散歩②

若者地域定着の様子－太宰府市、大牟田市

●地域イメージと高い定着率の関係…太宰府市

九州国立博物館の建設が計画されており、太宰府天満宮、太宰府政庁跡があり「学問の神様」菅原道真公ゆかりの地ということで、知名度は全国区といえる。

都市としてみた場合、常住地ベースの福岡市への通勤依存率は45.6%となっており、福岡市のベッドタウン都市である。1970～80年代にかけては戸建ての住宅団地建設が目白押しだった。

若者地域定着の様子をみると、昭和16～50年に生まれた10～14歳のどの世代をみても、その後、年齢が上がるにつれて人口が増えている。

特に昭和16～30年生まれの階層では200～300%以上の率になっており、同じ10～14歳の階層をみても、昭和16～20年生まれの階層と平成2年生まれの階層では4倍近い開きがある。戦後のわずか40～50年の間にものすごい「拡大再生産」をしたことになる。実際には持家取得に伴う新規転入が多いことが原因なのは間違いないが、同一階層の人口の数倍も受け入れてしまうところにベッドタウン都市のスゴミが感じられる。

今後の問題は、都市計画が新規の人口流入を抑制する方向になっており、人口増加は自然増のみでみてい

る点である。1970～80年代に持家取得で流入した階層の子供達がこの地で定着してくれば本当の拡大再生産が達成されるが、地元に着せず都心のマンション住まいの志向が増えてくれば、後継ぎのいない都市になって急激な高齢化を迎える虞がある。

●今後の産業の展開に若者定着の光を…大牟田市

明治時代から昭和30年代までは日本有数の産炭地、戦後は特に新産業都市としての重工業の産業立地と、常に国策にのった産業施策を手掛けることで県南部地域の中心として機能してきた同市で、人口規模は県内で第4位となっているが、近年の石炭産業の縮小、重工業の停滞によって、人口は徐々に減少しつつある。この10年間の動きをみても、昭和60年15.9万人→平成2年15.0万人→平成7年14.5万人とどんどん減少が進んでいる。

若者定着数は、昭和16～25年の戦中・戦後生まれ世代が平成2年時点に4割強で1/2以下となっている。この階層の半減がその子供達の階層に大きく影響しており、昭和60～平成2年にかけて10～14歳を迎えた階層は、それぞれ1万人前後で、30年前の2.1万人の半分になっている。典型的な「縮小再生産」の様相を示しており、このまま行けばもっと人口が減少する虞もある。6月9日付けの新聞に、アルミ缶工場が進出を決めた記事が載っていたが、外部資本の重工業を誘致するばかりでなく、地場の産業技術も同時に高めて産業の芽を作っていくような仕掛けも長期的な取り組みにあって良いのではと思われる。（尾崎 正利）

【お詫び】

前号（1996年5月21号）13頁下表の久留米市の定着率で、下から2段目からの「昭和46～50年生」「昭和51～55年生」の数値、また、21頁「生産者きばる」の電話番号が違っておりましてので、お詫びして訂正させていただきます。

お手数ですが手元のよかネット21号を下記のとおり訂正くださいますようお願いいたします。

※久留米市定着率の数値……右表を参照ください。

※「生産者きばる」（事務局 ガイアみなまた）

TEL 0966-62-0039

13ページ下表 久留米市の定着率

国際調査 調査年								単位：人、%
昭和30年	昭和35年	昭和40年	昭和45年	昭和50年	昭和55年	昭和60年	平成2年	
13,555	16,510	14,870	16,279	16,171	15,829	15,372	14,680	昭和
100.0%	121.8%	109.7%	120.1%	119.3%	116.8%	113.4%	110.5%	16～20年生
10～14歳	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	昭和
17,511	18,431	20,617	19,516	20,090	19,437	18,569	168.3%	昭和
100.0%	105.3%	117.7%	113.7%	114.7%	111.0%	108.3%	21～25年生	
10～14歳	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	26～30年生
14,549	16,410	17,244	17,688	17,688	17,682	17,024	17,024	昭和
100.0%	112.5%	118.5%	121.6%	121.6%	121.3%	117.0%	28～30年生	
10～14歳	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	31～35年生
14,426	15,423	15,989	15,989	15,989	15,989	15,976	15,976	昭和
100.0%	107.5%	109.9%	109.9%	109.9%	109.9%	109.8%	31～35年生	
10～14歳	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	36～40年生
14,622	15,735	15,735	15,735	15,735	15,735	15,735	15,735	昭和
100.0%	107.5%	107.5%	107.5%	107.5%	107.5%	107.5%	36～40年生	
10～14歳	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	41～45年生
16,314	16,970	17,246	17,246	17,246	17,246	17,246	17,246	昭和
100.0%	104.0%	104.0%	104.0%	104.0%	104.0%	104.0%	41～45年生	
10～14歳	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	昭和
18,176	19,029	19,029	19,029	19,029	19,029	19,029	19,029	昭和
100.0%	104.7%	104.7%	104.7%	104.7%	104.7%	104.7%	51～55年生	
10～14歳	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	昭和
16,344	16,344	16,344	16,344	16,344	16,344	16,344	16,344	昭和
100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	51～55年生	
10～14歳	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	昭和
16,344	16,344	16,344	16,344	16,344	16,344	16,344	16,344	昭和
100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	51～55年生	

(誤)

(誤)

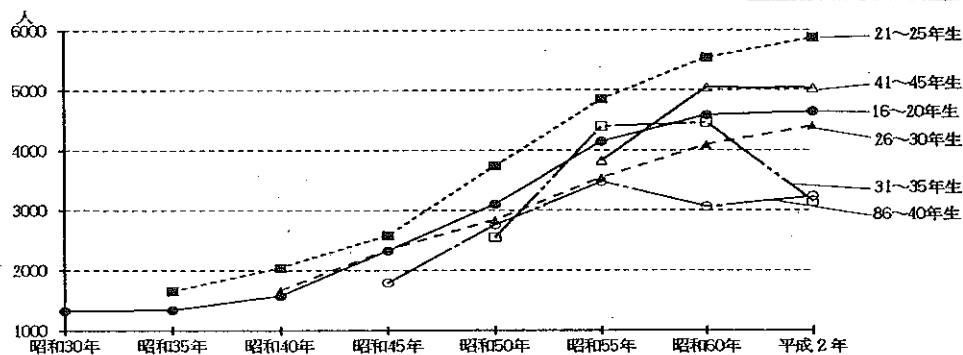
(正)

18,176	19,029	昭和
100.0%	104.7%	46～50年生
10～14歳	15～19歳	昭和
16,344	16,344	51～55年生
100.0%	100.0%	昭和
10～14歳	15～19歳	昭和

国勢調査	調査年	昭和30年	昭和35年	昭和40年	昭和45年	昭和50年	昭和55年	昭和60年	平成2年	
昭和30年	1,323	1,341	1,574	2,324	3,097	4,140	4,574	4,643	昭和	昭和
10~14歳	100.0%	101.4%	119.0%	175.7%	234.1%	312.9%	345.7%	350.9%	昭和	昭和
		15~19歳	20~24歳	25~29歳	30~34歳	35~39歳	40~44歳	45~49歳	昭和	昭和
		1,656	2,046	2,583	3,740	4,849	5,540	5,874	昭和	昭和
		100.0%	123.6%	156.0%	225.8%	292.8%	334.5%	354.7%	昭和	昭和
		10~14歳	15~19歳	20~24歳	25~29歳	30~34歳	35~39歳	40~44歳	昭和	昭和
		1,669	2,343	2,839	3,539	4,088	4,398	4,398	昭和	昭和
		100.0%	140.4%	170.1%	212.0%	244.9%	263.5%	263.5%	昭和	昭和
		10~14歳	15~19歳	20~24歳	25~29歳	30~34歳	35~39歳	40~44歳	昭和	昭和
		1,789	2,755	3,470	3,053	3,226	3,142	3,142	昭和	昭和
		100.0%	154.0%	194.0%	170.7%	180.3%	123.5%	123.5%	昭和	昭和
		10~14歳	15~19歳	20~24歳	25~29歳	30~34歳	35~39歳	40~44歳	昭和	昭和
		2,545	4,392	4,453	3,142	3,142	3,142	3,142	昭和	昭和
		100.0%	172.6%	175.0%	123.5%	123.5%	123.5%	123.5%	昭和	昭和
		10~14歳	15~19歳	20~24歳	25~29歳	30~34歳	35~39歳	40~44歳	昭和	昭和
		3,827	5,037	5,025	5,025	5,025	5,025	5,025	昭和	昭和
		100.0%	131.6%	131.3%	131.3%	131.3%	131.3%	131.3%	昭和	昭和
		10~14歳	15~19歳	20~24歳	25~29歳	30~34歳	35~39歳	40~44歳	昭和	昭和
		5,337	7,173	7,173	7,173	7,173	7,173	7,173	昭和	昭和
		100.0%	134.4%	134.4%	134.4%	134.4%	134.4%	134.4%	昭和	昭和
		10~14歳	15~19歳	20~24歳	25~29歳	30~34歳	35~39歳	40~44歳	昭和	昭和
		4,968	4,968	4,968	4,968	4,968	4,968	4,968	昭和	昭和
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	昭和	昭和
		10~14歳	15~19歳	20~24歳	25~29歳	30~34歳	35~39歳	40~44歳	昭和	昭和

平成2年国勢調査	
0~4歳	2,837
5~9歳	3,843

資料：「国勢調査」

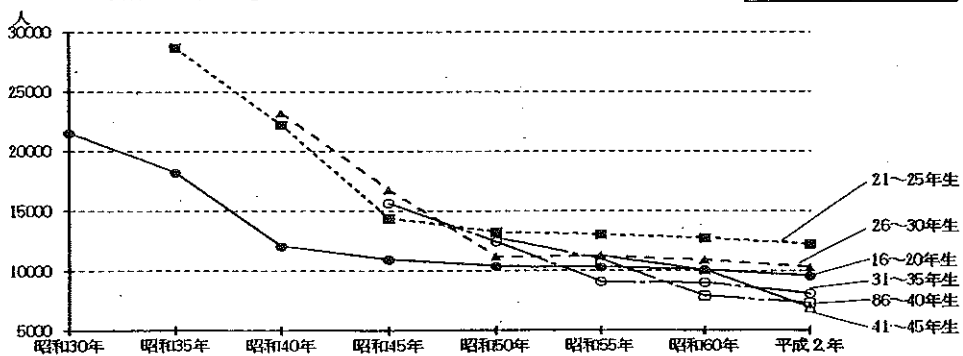


太宰府市の定着率
(男女計)

国勢調査	調査年	昭和30年	昭和35年	昭和40年	昭和45年	昭和50年	昭和55年	昭和60年	平成2年	
昭和30年	21,499	18,215	12,037	10,918	10,353	10,275	10,065	9,552	昭和	昭和
10~14歳	100.0%	84.7%	56.0%	50.8%	48.2%	47.8%	46.8%	44.4%	昭和	昭和
		15~19歳	20~24歳	25~29歳	30~34歳	35~39歳	40~44歳	45~49歳	昭和	昭和
		28,717	22,214	14,362	13,243	13,029	12,751	12,224	昭和	昭和
		100.0%	77.4%	50.0%	46.1%	45.4%	44.4%	42.6%	昭和	昭和
		10~14歳	15~19歳	20~24歳	25~29歳	30~34歳	35~39歳	40~44歳	昭和	昭和
		23,190	16,735	11,188	11,223	10,907	10,291	10,291	昭和	昭和
		100.0%	72.2%	48.2%	48.4%	47.0%	44.4%	44.4%	昭和	昭和
		10~14歳	15~19歳	20~24歳	25~29歳	30~34歳	35~39歳	40~44歳	昭和	昭和
		15,616	12,394	9,039	8,965	8,045	8,045	8,045	昭和	昭和
		100.0%	79.4%	57.9%	57.4%	51.5%	51.5%	51.5%	昭和	昭和
		10~14歳	15~19歳	20~24歳	25~29歳	30~34歳	35~39歳	40~44歳	昭和	昭和
		12,721	10,943	7,893	7,893	7,264	7,264	7,264	昭和	昭和
		100.0%	86.0%	62.0%	62.0%	57.1%	57.1%	57.1%	昭和	昭和
		10~14歳	15~19歳	20~24歳	25~29歳	30~34歳	35~39歳	40~44歳	昭和	昭和
		11,193	10,055	6,874	6,874	6,874	6,874	6,874	昭和	昭和
		100.0%	89.8%	61.4%	61.4%	61.4%	61.4%	61.4%	昭和	昭和
		10~14歳	15~19歳	20~24歳	25~29歳	30~34歳	35~39歳	40~44歳	昭和	昭和
		11,740	10,550	10,550	10,550	10,550	10,550	10,550	昭和	昭和
		100.0%	89.9%	89.9%	89.9%	89.9%	89.9%	89.9%	昭和	昭和
		10~14歳	15~19歳	20~24歳	25~29歳	30~34歳	35~39歳	40~44歳	昭和	昭和
		10,177	10,177	10,177	10,177	10,177	10,177	10,177	昭和	昭和
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	昭和	昭和
		10~14歳	15~19歳	20~24歳	25~29歳	30~34歳	35~39歳	40~44歳	昭和	昭和

平成2年国勢調査	
0~4歳	7,170
5~9歳	8,826

資料：「国勢調査」



大牟田市の定着率
(男女計)

地域計画のための一知半解事典③
将来の年齢別人口構成からみた住宅需要仮説

人々がどんな住宅（持家・借家など）に住むかは、年齢に大きく左右されます。例えば学生時代や働き始めた頃はワンルームなどの賃貸住宅、結婚して子供が生まれ家族が増えると、広い賃貸マンションや戸建ての借家、あるいは持家購入などとなります。そのサイクルは年齢に応じて①単身要借家需要層（24才未満）、②世帯要借家需要層（25～34才）、③前期持家需要層（35～49才）、④後期持家需要層（50～64才）、⑤高齢住宅需要層（65才以上）とされています。このサイクルを将来の年齢別人口の予測値にあてはめたら、住宅需要について何かいえないかと考えたのが図1～3です（人口、世帯数ともに福岡県データ）。

図1は1990年現在の数値で、図2は2010年の人口

図1 1990年の福岡県の人口及び世帯数（資料：国勢調査）

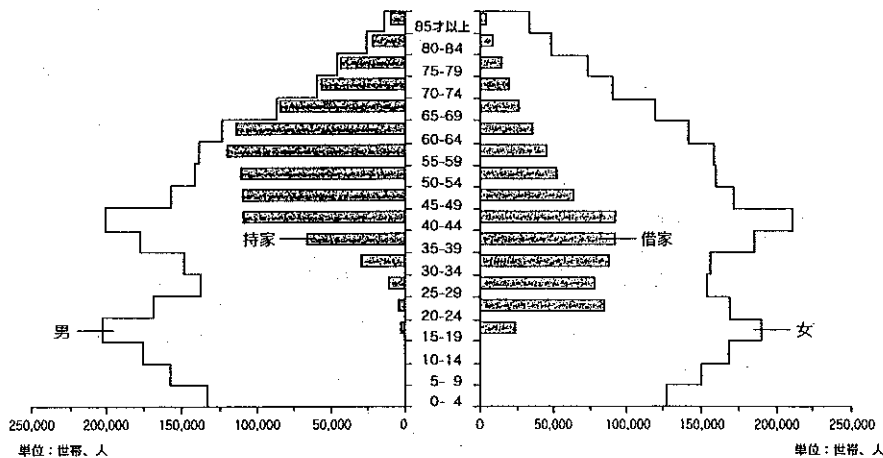
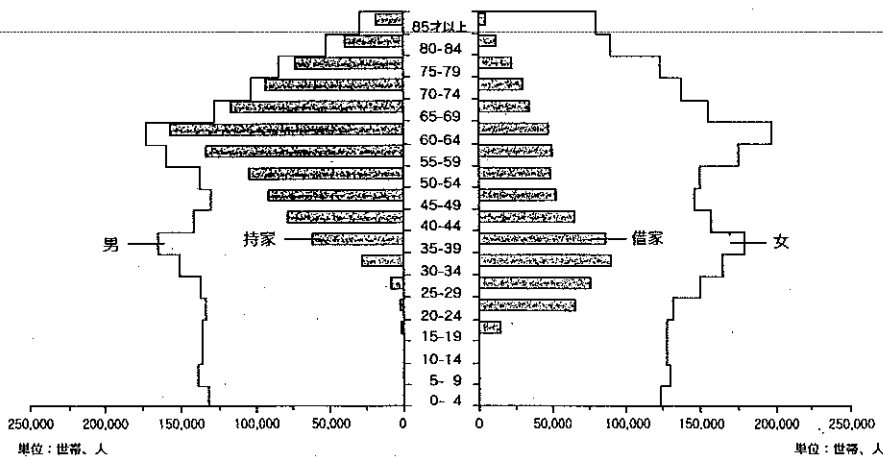


図2 2010年の福岡県の人口及び世帯数（コーホート人口推計による数値）



の推計値と1990年の年齢別持家・借家率を人口の推計値にかけあわせて表示したものです。図3は図1と図2を合体したものです。

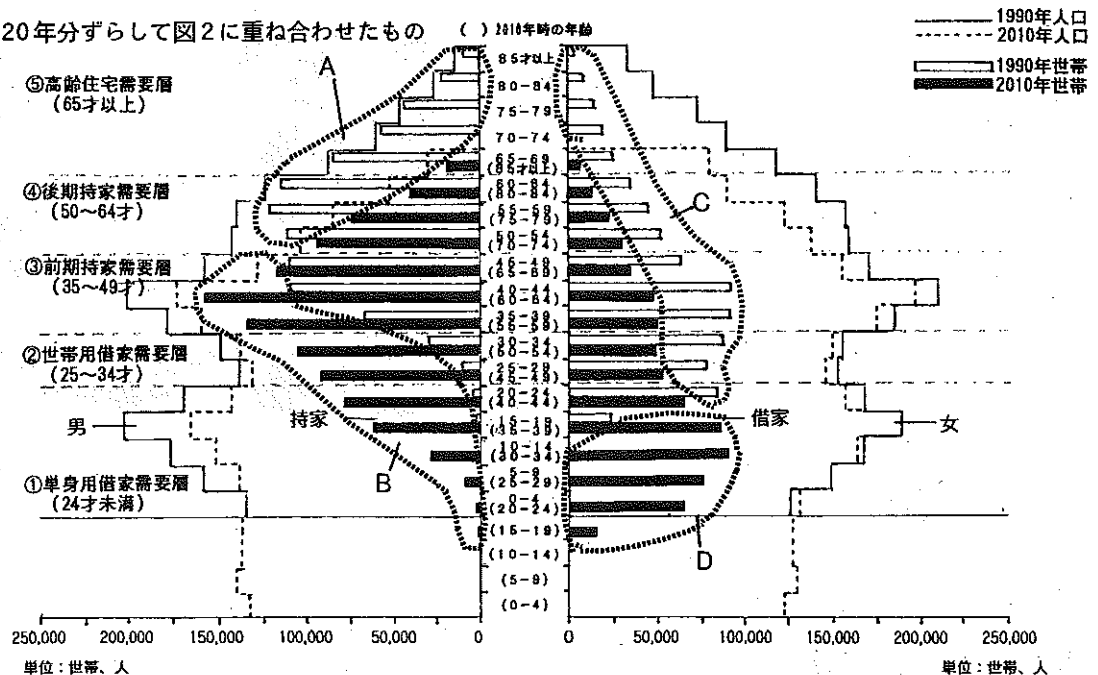
図1で1990年に60～64才の人の持家世帯数は約11万ですが、図2の2010年には、20才年をとった80～84才の持家世帯が約3万と減少しています。この7万世帯の持家はどこにいったのか疑問に思い、この図1と図2を重ねてみたものが図3です。

これを住宅（特に持家）についてみると、点線で囲んだAでは、1990年の住宅がはみ出しています。ここでは、1990年にあった住宅ストックの余りが生じます。また逆に、Bでは若年の持家取得者が住宅ストックを上回ります。つまり2010年には高齢者の持家は不用になるのですが、そのストックを若者のための供給にどのようにつなげられるのが問題になりそうです。

このことについてのデータ（簡単な事例）などありましたらお教え下さい。

（澤谷 真紀子、糸乗 貞喜）

図3 図1を20年分ずらして図2に重ね合わせたもの



減価型まちづくりと増価型まちづくり

—新横浜ラーメン博物館で考えたこと—

●昭和33年の下町テーマパーク

うるさく、しつこく「新横浜ラーメン博物館」をすすめる友人がいて、絶賛するので見に行ってきた。期待にたがわず、十分面白かった。丁度その日は「江戸東京博物館」とハシゴをしたのだが、極めて面白い対照であった。

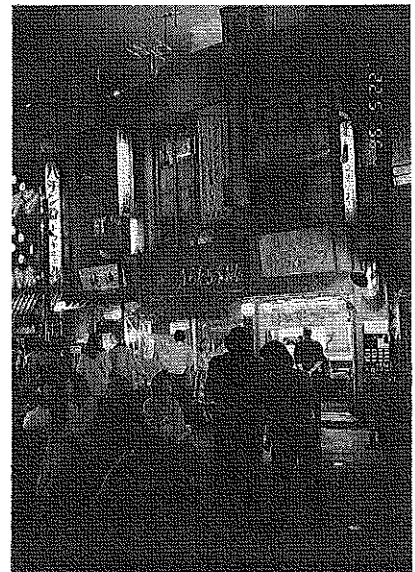
その違いを動物園で例えると、江戸東京の方は、高価な動物がいるのだが、嚴重な檻の向こうにいて、自分と別の空間にいるものを見物させていただくという感じである。ラーメンの方は、昔の自分を思い出す、カエルやヤギ、ウサギ、ネコなどがいて、一緒にじゃれあいながら遊べる、動物たちと一体化できる動物園である。

この施設の概要は、ラーメン博物館と立体駐車場の複合建築で、述べ6,900㎡となっている。

- ・ラーメン博物館: 地上1階～地下2階 2,320㎡
- ・立体駐車場: 2階から上 この駐車場とラーメン博物館は営業上は無関係

ラーメン博物館は1階が展示ギャラリーとなっていて、レプリカで昔風のラーメン店があったり、全国各地のラーメンのどんぶりが陳列してあったり、売店(持ち帰りラーメンなど)がある。しかし、客の眼目はこの展示ではなく、ほとんど滞留していない。

夕暮れ時の昭和33年の風景

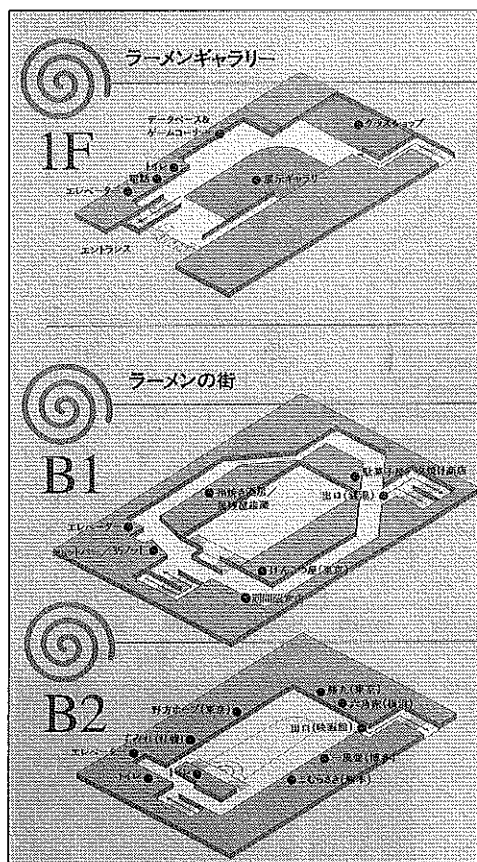


地下1・2階が吹き抜けになっていて、入場者はここにすぐ降りていく。

●“時代博物館”ができる時代

ラーメン博物館のテーマは、“昭和33年の下町”ということで、地下1・2階に微に入り細に穿って再現されている。

300円を払って入る客達の眼目はここにある。入場者の年齢層や動きを見ていて、昭和33年という「時代」の面白さに気がついた。私が行ったのは土曜の昼頃であったが、40歳代の夫婦と子供の4人連れといった人達がかなりいた。もう一つのタイプは、中高生くらい

ラーメン博物館
平面図館内を演出する夕焼け空
(40分サイクルで空の景色が変わるようにできている)

の2~3人連れである。これらの人達はゆっくりと通りをまわりながら、写真を取り合ったり、従業員でもある駐在所の警察官と記念写真をとったりしていた。まさに「風景にひたっている」という状況であった。

考えてみると、昭和33年という年はミッチーブーム(現天皇と皇后の婚約によるブーム)の年であり、フラフープが流行り、テレビ時代の幕開けとなり、ダッコちゃん人形ブームとつづいた頃である。歌とか映画のような気分を感じるものの流行から、モノを買うということをともなった流行へ変態した分岐点の時代であった。

つまり昭和33年の風景というものは、戦後の22、23年頃から40年くらいまでの風景を代表しているのである。物心がついて以後に昭和22、23年から40年ぐらゐまでを体験した人々にとってはセンチメンタルジャーニーの場であり、若い世代にとっては父母の時代の文化探訪をすることによる追体験の場になっているように見えた。ここは「語り部の館」にもなっているのである。

●増価型都市・地域と減価型都市

私どもは、何か施設を計画するとき、経営上で一番

気にするのが「減価償却と金利」である。交通機関などは、運賃の80%がそれだなどといわれている。公共団体のつくる施設は、減価償却と金利が全く考えられていないことが多いが、何年かすると補修しなければならないし、また何年かすると作り変えなければならない。つまり「古くなれば価値が下がる」ということを前提にしている。テーマパークなどでも、何年かすると新しい投資をしないと客にあきられて、売り上げが下がるといわれている。

しかし、新横浜ラーメン博物館を見ていて「ひょっとするとこの施設は、大切に使用えば増価するのではないか」と考えた。もちろん超長期的には再建築が必要であろうが、時代屋テーマパークは、近未来には価値が上がっていくのではないかなと思う。

月日が経つほど、人々が参加するほど一層価値が上がり、参加者の感激が高まっているものとして四国八十八カ所の遍路がある。これも「心のやすらぎ」をテーマとした四国全体にわたるテーマパークと考えてよい。もちろん絵画・彫刻などの美術館もそうだ。江戸東京博物館の中にも、それに相当するものはあった。

今後のキーワードは“思い”と増加型まちづくりということになる。

少し駄足をつけ加えると、金利の高い資本を使ったものは、じっくりかまえることはできない。結局「高回転・早期償却型の減価型施設」とならざるをえない。逆に金利のかからない資金を使った施設は、長期収支で考え、じっくりと増価型施設づくりもありうるのではないかなと思う。これは、低回転利用でもよいことになる。

(糸乗 貞喜)

道業を成せんがために、まさにこの食をくうべし

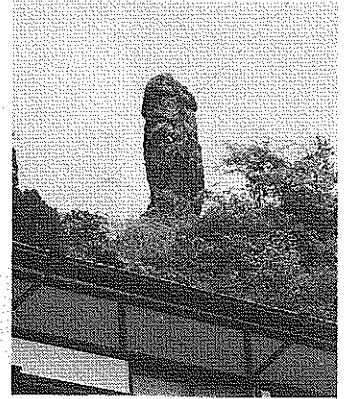
黒木町霊巖寺の精進料理

八女郡黒木町を訪れた際、霊巖寺でおいしい精進料理を口にすることができた。

八女地方は古くから茶の産地として有名であるが、15世紀初めに、僧の栄林周瑞が中国から持ち帰った茶種を霊巖寺開山の折に植え、栽培法・製茶法などを伝えたのがその始まりだと云われている。霊巖寺は茶の発祥の地という他に境内にある奇岩でも有名である。この奇岩はとてもユーモラスな形をしていて、これを見た私は唖然としてしまった。

さて霊巖寺の精進料理であるが見た目も美しく、とても美味であった。最近レストランで食べる料理といえば味付けが濃く、素材の味がわからなくなっているものが多い。しかし、ここで口にした精進料理は最小限の味付けで素材が持っている旨みが十分にいかされた上品な味であった。品数がとても多く、大食の私でもおなか破裂しそうになる量であったが、どれ一つをとってもおいしかった。なかでも私が気に入ったのは桜の入った吸物である。ほんのりと桜の香りがして、口にすると体の中が洗われる様な逸品であった。最後に抹茶と茶菓子の麩饅頭が運ばれてきた。抹茶を飲みながら箸袋を見ると食時五観文（食事の作法）が書かれていた。「一つには、功の多少を計り、彼の来処を

日本三大奇岩の一つ、何に見えるかご想像を



量る。二つには、己が徳行の全欠と付つて供に应ず。三つには、心を防ぎ、過貧等を離るるを宗とす。四つには、正に良薬を事とするは形枯を療せんが為なり。五つには、道業を成せんが為に、まさにこの食をくうべし。」簡単に要約すると「食事を作ってくださった方に感謝しながら、食事を食べるために恥ずかしくない行いをし、食事をむやみに欲しがったり、むさぼり食べることがないように、自分の体と心に必要な分だけ、勉強や仕事を立派に成し遂げるためにいただく。」ということである。この後、仕事に力が入ったのは言うまでもない？ (七搦 かおり)

有智山荘で味わうドブロク、燻製、特産品

—第4回よかネット・パーティー報告—

「有智山荘」建設のいきさつ

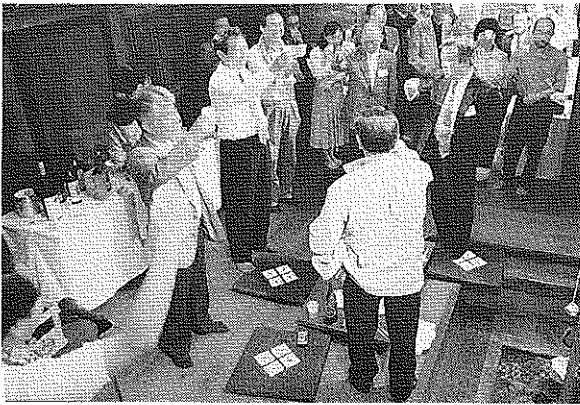
「有智山荘」での高松さんの話の内容を紹介する前に、どうしてこの場所で開催したのかを少し説明したいと思います。

第3回までは我社の7階会議室で開催してきましたが、参加人数の割にはスペースが狭く、ゆっくりと交流できないということで、どこか適当な場所がないものかと思案していました。

ちょうどそんな時に、「有智山荘」のパンフレットが送られて来て、建物の雰囲気の良いさとスペースも十分であるということで、「有智山荘」で開催できれば素晴らしいパーティーができるのではないかと考えられました。その旨をオーナーの高松さんにお願いすると快く引き受けていただき、さらにせっかくの機会なので建設のいきさつなどをお話していただければとお願いした次第であります。



左上から時計まわり 煮しめ（竹の子、ふき、干大根、ゆりね）、わらびの炒めもの、酢のもの（胡瓜、うど）、吸いもの（桜、生ふ、ゆば）、茶碗蒸し（山芋、むかご）、茶飯、吸物（ゆば、椎茸、そばの実）、胡麻豆腐、その他しゃくなげのてんぷらなど



ドブロックで乾杯

当日は「ドブロック」での乾杯の後、直ぐに高松さんにお話をいただきました。印象に残った内容としては次のようなことがあげられます。

- ・国が行っている文化財の指定というのは、神社、仏閣、農家住宅などに分類されるもののみが対象となっている。文化的価値があっても役所の分類したものに当てはまらないと文化財とはならない。この建物の原型となっている「博労」の家は文化の対象とはならないらしい。
- ・江戸時代頃の木材は、植林した木は無かった訳だから、全て自然木であった。従って、有智山荘の木材は全て“木”ではなく“樹木”である。
- ・“樹木”は何百年経っても生きており、今でも柱や梁が暴れている。ここに移築するとき、ばりばりと音がして驚いた。
- ・構造材として木材以外を使用したものは“柱”や“梁”とはいわない。木を使うから“柱”“梁”なのである。鉄骨などは“柱”ではなく、フレームというべき単なる構造体である。
- ・日本の大工の技術は未だ捨てたものではなく、設計図と監督する人がいれば、十分民家移築は可能である。
- ・農村一揆で刀傷が付いている神棚のある民家があるので、是非この神棚を1階の壁際に飾っておきたい。

(山田 龍雄)

■ドブロックでネットワーク

今回のパーティーでは、ドブロックを作って出しました。私の家は、大野城市の四王寺山の麓にあるのですが、地下の岩盤が一枚岩で山頂から麓までつながっており、水は自然に味付けされてきている…ということを知ることがあります。とても水がおいしくペットボトル



恒例となった博多にわか、2回の栈敷からも見物

で売られている水にも負けなと思います。おいしい水とくればおいしい酒ができる必要条件といいますが、「ドブロックを作ろう」(前田俊彦編、農村漁業文化協会刊)や「シャンパン風ドブロックの作り方」(山田陽一著、農村漁業文化協会刊)などの本で紹介されているドブロックの作り方「ウチの水でつくったら美味しいドブロックができるのではないか」と思い、何度か作っていました。

今回のパーティーで出したのは酒母から自分で培養して仕込んだドブロック。発酵が思ったより早くて酸っぱくならないよう会社の冷蔵庫で温度調整をしたり、瓶の中にスプーンを誤って沈めてしまったり、たまに味見と称してわざと余計に飲んだり、「事務所の酒臭ーい」と苦情をいわれたり、「尾崎まだ出来ないのか」とせかされたり……。パーティーの乾杯の時に皆さんに渡った時が一番美味しい状態だったのではないかと思います。ちなみに同時に仕込んださつまもドブロックは手がすべって芋の分量を間違えたのか、アルコール度数が異常に高く、ひどく酸っぱいもので、誰も手を出してくれませんでした。これを蒸留すれば理論的にはイモ焼酎になるはず。

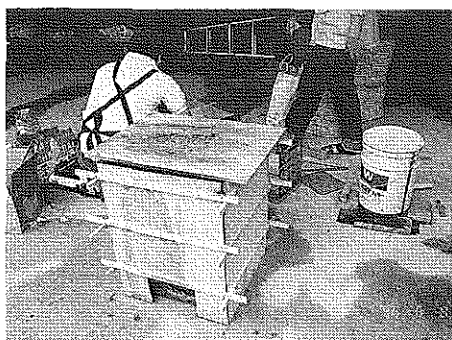
お客さんの中にもドブロックに詳しい方が結構あって、ドブロックの瓶を囲んで、暖かいお言葉、厳しい御意見と、いろいろと勉強させていただきました。

なお、作り方を教えてくれという意見もありましたので、私のような者が相手でもいいという方があれば御連絡下さい。今度、御一緒に作りましょう。

(尾崎 正利)

■楽しい交流を盛り上げる特産品…約70品

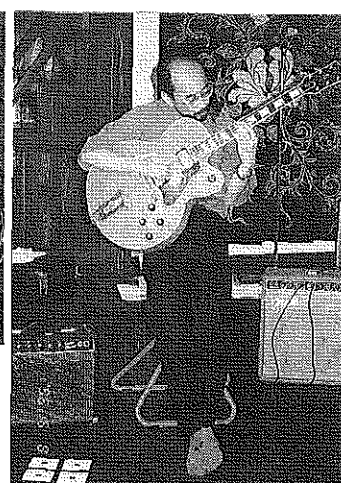
第4回となる今回は、今までのパーティーで好評だったもの、面白い話があるものなどを選んで取り寄せる



自家製薫製器（大小2つ）



好評だった品の一つ“水なすの漬物”



ギター生演奏の飛び入りもありました

ことにしましたので、種類は前回よりも減ったかもしれませんが、当日お持ちいただいたり、前もって“おいしいもの情報”を教えてください、「参加はできませんが皆さんでどうぞ」と送っていただいたりと、あたたかいネットワークのおかげでおいしいもの、楽しいものがいろいろ集まりました。改めてお礼申し上げます。

今年初めてお出した中で、これはなかなかおもしろいと思ったものの中からいくつかをご紹介します。

「からからせんべい」（山形）…… 西村多久満さんに送っていただいた面白いせんべい。中に小さなおもちゃが入っていて、それが各々違うので、さあ一体何が入っているのかとわくわくしてしまいました。

「僻地田楽」（山形）…… 卯田正信さんに送っていただいたお菓子。「おしゃれなお菓子の好きな人にとっては、あまりに素朴な代物ですが、田舎料理の好きな年輩の方々には、きっと郷愁を覚えていただけるお茶菓子だと自負します。」と書かれていましたが、これは本当においしくて、残っていることを期待していましたが、残念ながらやはり無理でした。

卯田さんからいただいた手紙によると、このお菓子が作られているのは、山形県の新潟との県境あたりにある小国町という山村で、かつて内村鑑三が、いまだ古いキリスト教に毒されていない地として伝導を試み、

第4回よかネット・パーティー特産品一覧

【特産品名】	【産地】	【特産品名】	【産地】	【特産品名】	【産地】
1. トッ、アツラ、タの缶詰	北海道・襟裳岬	16. ドレッシング他	福岡・筑穂	31. 飛魚の薫製	鹿児島
2. 毛がに	北海道	17. アップルパイ	福岡・嘉穂	32. 塩ゆでピーナッツ	鹿児島
3. からからせんべい	山形	18. リンゴジャム	福岡・嘉穂	33. 鯖の生ぶし	鹿児島・屋久島
4. 僻地田楽	山形・小国	19. 梨のどエキス・あめ	福岡・嘉穂	34. 豆腐よう	沖縄
5. くるみ煮	石川・金沢	20. 玉露羊羹	福岡・星野村	35. かまぼこ	
6. 生ハム・スモークハム	岐阜	21. おきうと、漬物	福岡	36. コチジャンキムチ	
7. 馴れ寿司	滋賀・大津	22. 白玉まんじゅう	佐賀	37. 豚の角煮（手作り）	
8. 生麩	京都	23. ざる豆腐	佐賀・唐津	38. 漬物、梅干（手作り）	
9. はしだての味噌・だい	京都・宮津湾	24. 甘夏ジュレー	佐賀・呼子	39. パン（手作り）	
10. 水なすの漬物	大阪	25. 味付きあご	長崎	40. ケーキ（手作り）	
11. さいぼし	大阪・羽曳野	26. からすみ	長崎	41. 地鶏の玉ひも煮（手作り）	
12. 黒豆の甘納豆	兵庫・丹後篠山	27. 老舗豆腐他	長崎・壱岐	42. 空豆といりこの煮物（手作り）	
13. カマンベールチーズ	岡山・蒜山	28. 鯖寿司	大分・大山	43. 自家製薫製（手作り）	
14. 洋酒ケーキ	広島・上下町	29. 地鶏炭火焼き	宮崎・都城		
15. いわしの糟味噌炊き	福岡・北九州	30. 日向かぼちゃ漬け	宮崎		

第4回よかネット・パーティー酒・焼酎一覧

【品名】	【産地】	【品名】	【産地】	【品名】	【産地】
1. 本醸造 酔影弘前	青森・弘前	10. 大吟醸 箱入娘	福岡・八女	19. 焼酎 アサヒ	鹿児島
2. 吟醸 漆匠浪漫	青森・弘前	11. 清酒 富の寿	福岡	20. 焼酎 伊佐美	鹿児島
3. 清酒 雪の松島	宮城・仙台	12. 清酒 窓乃梅	佐賀	21. 四川省の古酒	中国・四川省
4. 清酒 菊姫	石川	13. 原酒 たちばな	宮崎	22. 中国の酒	
5. 大吟醸 近つ飛鳥	大阪・羽曳野市	14. 焼酎 百年の孤独	宮崎	23. 桂花陳酒	
6. 梅酒エクセレント	大阪・羽曳野市	15. 焼酎 野うさぎの走り	宮崎	24. ワイン	
7. 清酒 剣菱	兵庫	16. 焼酎 屋久島黒潮	鹿児島・屋久島	25. とぶろく（手作り）	
8. 清酒 寒北斗	福岡・嘉穂	17. 焼酎 三岳	鹿児島・屋久島		
9. 焼酎 宝壺	福岡・八女	18. 焼酎 屋久島の島	鹿児島・屋久島		

その弟子、鈴木^{すずき}彌美が小さな高校を開き、独創的な教育を展開したという所だそうです。このようなお話もうかがって、さらに味わいが増すように思いました。

「水なす漬物」……泉州独特の水なすの漬物。その味は、糠漬けのようであり、さっぱりと浅漬けのようでもあり、初めてのおいしさでした。

回を重ねるごとに、特産品そのものよりも、会話や出会いを楽しんでいただいているように感じています。楽しい交流をさらに楽しく盛り上げるような面白い特産品をご存じの方は、今後も情報をお待ちしていますので、ご協力お願い致します。（富重 慶子）

近 況

④コインランドリーとミュージカル

“ふるさときゃらばん”というグループのミュージカルを見た。「パパは家族の用心棒」という小さな町の商店街と上流の農村、下流の漁村を舞台にしたものである。結果的には面白かったが、何分前半の背景の説明部分がのろのろしたテンポで「芝居になっていないなあ」などとつぶやきながら見ていた。ここを過ぎるとテンポも良くなり内容も面白かった。あとで聞いた話だが、このテンポについては、上演する場所が農村と都市、あるいは観客層がおじいちゃんおばあちゃんなどを含む高齢者が多いときと、若い高校生が多いときでは「変えている」ということを聞いて、ひどく感心した。

後日「裸になったサラリーマン」も見た。リストラで子会社に出向させられるが、そこで奮闘する話だ。これも面白かったが、テーマは前者の食糧問題、農村、農作物と農業、商店街、漁業問題などの方が、後者のリストラ問題より普遍性がある。結局、普遍性のあるテーマの方が面白いのかなと思った次第。

言いそえると、この劇団は株式会社になっている。従業員数91名、売上げ7億5千万円である。その従業員（劇団員）は、脱サラ組や演劇青年や公演を見てあとを追ってきた人などで、トラック2台に舞台装置などを積み込んで年中各地を廻っている。舞台を見ていて汗かきの私は気になったので聞いてみた。「見ている私でも汗をかくのに、あれだけ飛んで跳ねて唄ったら汗かくでしょう。センタクはどうしているんですか」「それ

が大変なんですよ、センタク機もって廻っていた頃もあったんですが、干すところがないし、結局公演のセールの廻る人間が宿を探すとき、コインランドリーを見つけて、そういう条件も考えて宿を決めるんですよ」という話であった。日本全国が都会化した生活様式になっていることが、ここにもうかがえる。

（糸乗 貞喜）

④人は地域の雰囲気と実利を求めてやってくる

5月の春の陽気が漂う日曜日に、甘木の「秋月」と「水の文化村」に行ってきた。

「水の文化村」は平成5年11月に県と市との出資による第3セクターで設立したテーマパークである。

「水の文化村」には10時半頃に入場した。当日は「カメラ」を抱えたいかにもカメラマンという人が30～40人程来ていた。これは某カメラ販売店の「水着ショー」が催されていたからである。一般のお客さんは、午前中であつたためか5～6人程であつたと思う。

一方、この文化村から4km程西側の地点にある「秋月」に行くと、老若男女の人々が秋月の歴史街道をぞろぞろ歩いている。ここでは秋月の歴史的街並みの中を歩くことによって、その地域らしい雰囲気や風土に浸ることによって満足感を抱いているものと思う。また、街並みの中にある店で腹ごしらえや買い物を楽しんでいる。まさに特色のある地域ならではの雰囲気の中で、実利が伴っているから多くの人が集まってくるものと思う。

「水の文化村」では簡単な筑後川流域の説明コーナー、後は「ウォータースクリーン」というシャワーに映し出される「水の誕生」をテーマとしたプロモーションビデオ、水の実験コーナー、水に住む生物を小さなモニターで見るコーナーなどがある。一つひとつは良くできているのだが、わざわざここに来て、何回も見ることがないといった感じである。

つまり地域らしさの演出と実利が薄いのである。多くの開発投資ができない施設やテーマパークでは、やはり地域らしさにこだわることで、実利が得られるような工夫が必要ではないかと感じた次第である。

（山田 龍雄）

④ゴミになったテニスボール

明治神宮外苑の公孫樹（いてふ）の並木の緑を浴びながら、これが氷河期以前の植物だということを思いつつ歩いていた。一寸と横道を入ったところに、明治



この並木道の左側にテニスクラブがある

神宮外苑テニスクラブと看板が出ていた。5月の朝ののびやかな空気の中で、テニスの音も木霊していた。クラブの玄関から少し入った脇にゴミ置場があって変なゴミが置いてあった。大きい袋いっぱい、テニスボール。東京は透明なゴミ袋を使っているの、全くよくわかる。近くにおられた方に聞いてみた。「これはゴミとして捨てているのですか」「ええそうですが」「もったいないですねえ、子供達のいる施設などにあげると喜ぶんじゃないですかねえ」「ええ、うちも普通のゴミと別にして一袋にしているの、希望があればねえ」…。世の中にはこんな形で、ゴミになるものが多いに違いない。例えば家具などでも……。 (糸乗 貞喜)

■うらしま太郎インストラクター日記～ひよっこは思った

4月末に、高齢者疑似体験セット「うらしま太郎」のインストラクターの講習を受けました。その1週間ほど前に、車椅子を使っのバリアフリー調査を行い、実際に身を持ってスロープ工事のいい加減さを感じていました。「目で見て、お年寄り・障害者の気持ちを考えたとしても、実態とはかなりかけ離れている、まさに、『百聞は一見にしかず』だ。」と感じ、「これは、うらしま太郎を実際に体験して、お年寄りの実態を掴まなければ」と、半ば義務感にかられ、やる気満々で臨みました。ここで私が感想を書いたとしても、これだけは、体験した者でないとわからないので、「実際に体験していただきたい」と、お薦めだけしておきます。

インストラクターの講習を受講してから現在(6月はじめ)まで、うらしま太郎を装着していただく機会を3度得ました。1度目は、車椅子を使っの調査に引き続き、バリアフリー調査においてです。実際に町の施設で高齢者等を相手に働いている方に装着していただ

き、道路を歩く、信号を渡る等の体験をしていただきました。2度目は展示会の会場で主に高齢者の枠のなかに最近入ったと思われる方を対象に、3度目は、看護学校の学園祭で、主に20才前後のパワフルな若者を対象に道具を使って(階段の登り降り、ペットボトルの開け締め、コップに注ぐ、パネルを見て色の区別がつくかetc)の体験をしていただきました。3度とも全く、状況、対象者、目的が異なり、様々な感想を聞くことができました。最も多かったのは身体的な衰えに関する不安(文字が読めなくなる、色の区別がつかない、耳がこもった感じがして聞こえづらい、体が重い、自由が効かないためにいらいらする等に対する将来的な不安)でしたが、私が印象に残ったのは、展示会場で60才前後の男性の方が車椅子を使っの体験をされていた時に、「介助する人は大変ね」という言葉をもらされたことです。その後こう続きます。「私は今楽ですもんねー、中腰の姿勢で私と話しているあなたは辛いと思いますよ、看護婦さんとかが患者さんと話すときは目線を合わす為に中腰になるでしょ、10分もしたら足がふるえてきますよ、その点、車椅子に座っている方は楽ですもん。」ドキッとしました。まだ体が衰えていない、比較的若い方がうらしま太郎の適切な体験者であり、お年寄りの不自由さを判っていただくことが、最大の目的だと思っていました。しかし、もう少しまわりを見ると、常に隣に付いている人の大変さも理解できるようになる、そのこともうらしま太郎を体験していただく意義であることを教えていただきました。今後もひよっこインストラクターですが、色々な方と(まさに)触れ合い、勉強させていただきます。

(澤谷 真紀子)

■「いつまでも生きられて困ってんだろう」

これは、門野晴子著「寝たきり婆あゝの猛語録」(講談社発行)の中に出てくるおばあさんの一言である。この本は、寝たきりになった80歳代の実母を在宅で介護することになった著書の体験談が、すさまじく、おもしろおかしく書かれている。

実母だから遠慮がなく、娘に対して言いたいことが言えるのかも知れないが、九つの章立ての中の見出しには、冒頭の一言の他に「いいんだよ、もうじき死ぬんだから!」「役所の世話になったらおしまいだよ。私はそこまで落ちぶれていないさ」など、強烈な言葉が並べられている。

著書も言っているように、戦前生まれの「女はかくあるべき」と育った人と、その後生まれ育った人との意識の違いは大きい。戦前生まれの人が高齢者であり、世の中の大半は、親の面倒は娘、嫁が看るものということになってしまっている。その体験からか「老後は子供の世話にならない」という中高年の女性も多いという。私の年代では、まだ親の介護問題を目のあたりにしている状況はなく、家族で話し合ったこともないので、親が寝たきりになったとき、誰が面倒をみるのか、など深く考えたことはなかった。親はどう思っているのだろうか。

印象的だったのは、「彼女（実母）の憎まれ口の底から訴えてくるものは、人はひとりでは生きられないのだよ、という厳粛な事実である」というあとかきの言葉だった。（歌丸 星子）

■「急に社長を全員集めると言われても……」

よかネットパーティーの準備でバタバタしてみんな事務所にいなかったときのこと。私も買い物に出かけようと事務所の入り口を出かかったとき、入れ違いで郵便局の若い男性の職員さんが2名事務所に入ってきました。分厚い鞆と日焼けした顔つきから察して簡易保険の勧誘の方だとすぐ分かった。「社長さんにお会いしたい」とにこやかに言うと、応接室のとなりの部屋からウチの大将がヌッと出てきて、つっけんどんに低い声でおごそかに応えた。「ウチは（屋台村だから）全員が社員で全員が社長や。いまはみんな出払っとるから、

急に社長を全員集めると言われても困る」。

勝負はわずか10秒足らず。若い勧誘員さんは「む」となってきびすを返し、我々が乗るエレベーターと一緒に乗って1階に降りていきました。会社案内に書いている屋台村を誰よりも実践しているのは誰だろう大将であることに改めて感心した。しかし、あの勧誘員さんたちもう少し頑張ってみてもよかったと思うのだが。もしかしたら「社長に会う」（名刺をいただく）ことが彼らの仕事の目的で、名刺がもらえなければお務めを果たしたことになるのかもかもしれない。11枚の社長の名刺のうち1枚ももらえなかったことで、勧誘員さんのポストが1つ減るようなことのないように幸運を祈る。（尾崎 正利）

編集後記

■「よかネットパーティ」の次の週に所員全員の感想会を行いました。「次の会場はどこにしようか」「もっと人と人を引き合わせるようなサービスがいるのでは」「来年はもっと参加型にできないのか」という意見なども出ていて、どうも来年もやる気がありそうです。特に、来年は参加型を目指すということで、「準備段階から参加者を募集する」「参加型として楽しさを増やすため、例えば、面白い話をする、歌を歌う、隠し芸をする、芸のない人は罰金を高めに等々」の意見が出されました。来年の開催を乞うご期待。（だ）

■よかネット1～20号までを分野別に編集しました。ご希望の方はご連絡ください。①やぶにらみ九州論 ②地域づくりと産業 ③住宅・高齢化・福祉 ④学術研究・文化（う）

講演会のお知らせ

「変貌する住宅需給構造」

講師：三宅 醇（豊橋技術科学大学教授）

記

日時：平成8年7月12日（金）

15：00～17：00

場所：アクロス福岡 西オフィス6階
606会議室

（福岡市天神1-1-1）

資料代：1,000円（当日受付で申し受けます）

※九州地域計画研究所 担当：富重

TEL:092-731-7671 FAX:092-731-7673

よかネット NO.22 1996. 7

（編集・発行）

（株）九州地域計画研究所

〒810 福岡市中央区天神1-15-1 日之出ビル6F

TEL 092-731-7671 FAX 092-731-7673

（ネットワーク会社）

（株）地域計画建築研究所

本社 京都事務所

TEL 075-221-5132

大阪事務所

TEL 06-942-5732

名古屋事務所

TEL 052-962-1224

東京事務所

TEL 03-3226-9130